

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救急出場現場で、酩酊者が短刀を救急隊に指し向けようとして、救急隊ともみ合う事例
3. 体験した事例の中心的要素	「男性が日本刀で腹部を刺した」との通報内容で救急出場した。自宅前で酩酊の男性が足の痛みを訴えていたが、車内で観察したところ刃物等の外傷もなく虚偽であることが判明、後から来た長男と協議し不搬送とした。車内で怒号をはいたり暴れるなどの行動があったため救急隊で自宅室内に抱え連れ戻したところ、敷いてあった布団の下に隠し持っていた短刀（鞘付き）を救急隊に指し向けようとした。鞘から短刀を抜こうとしたところを救急隊と取り合いになり、やっと取り押さえ救急隊には怪我はなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	現場には2名の警察官がいて、救急車内から酩酊者を連れ出す行為を警察官に依頼したが、資器材を壊す行為があったため、それを阻止しようと急いで救急隊が連れ出した。 酩酊者は初めから興奮状態であったため、自宅内に刃物等を隠し持っていることは予測できなかったが、警戒が必要だった。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 19年 7月 9日 午後 7時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋内：室外（救急車）から当事者自宅室内に連れていったところ
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：救急現場で酩酊者（傷病者）が救急隊に刃物を指し向けようとした
7. 事例体験時の活動	救急、現場活動終了時 [ ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：不搬送となった酩酊の傷病者を自宅に連れ戻した際の事例

9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。

これまでに1, 2回程度体験している。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 44 ]歳、勤続年数[ 26 ]年、現場経験年数[ 26 ]年、階級[ 消防司令 ]、同様の活動 [ 過去に1,2回程 ]、任務 [ 車長 ]
○当事者B	年齢[ 33 ]歳、勤続年数[ 13 ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ 消防副士長 ]、同様の活動 [ 初めて ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者C	年齢[ 28 ]歳、勤続年数[ 10 ]年、現場経験年数[ 10 ]年、階級[ 消防副士長 ]、同様の活動 [ 初めて ]、任務 [ 機関員 ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	AとC	酩酊者を両脇から抱え、室内に連れ戻した	
経過2	A	酩酊者が短刀を鞘から抜こうとしたので、鞘と柄の継ぎ目部分を握り締めた。	
経過3	C	短刀が鞘から抜けないう酩酊者の左手を確保した	
経過4	AとC	酩酊者から短刀を取り上げ警察官に渡し確保依頼した	警察官は室外に居て状況を目視していない
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？  
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

酩酊・薬物中毒・加害事故・モンスター傷病者等の暴力的傷病者の対応について部隊増強等の再検討会を実施した。

本事例で現場に居た警察官に事件性を強く訴えたが、警察官がその酩酊者の行為を目視確認していなかったため、危険にさらされた救急隊の訴えを軽微にみられ事件として取り扱われなかった。今後このような事例はさらに警察との連携について検討していく。

○指揮・情報伝達の対策について

# 現場配置図

